



# さいたまの民話「影絵紙芝居」



2014年1月20日(月)

午後2時～3時 入場無料

「二度栗山のはなし」「ほたるの笛」他  
影絵制作&上映 「影絵いろり座」 高橋正幸  
主催 市民の居場所を作る会 代表 山田ちづこ

**二度栗山のお話** 《天長年間（824～833）の秋、身に墨染めの衣をまとい、杖をたよりに、与野郷の地へたどり着いたひとりの僧侶があった。路傍の石に腰をおろし、ふと前を見ると、一人の童が木によじのぼりしきりに栗の実を落としている。そこでくだんの僧は「愚僧に一つもらえまいか」と声をかけた。わらべは無言で木から降りてきて、落とした栗を拾い集め、両手にいっぱい栗を僧侶の前に差し出した。「袋があればもっといれてやるよ」と言いながら、再び木にのぼった。僧侶は喜んで「感謝のしるしに栗の実を毎年二度ずつなるようにお祈りしよう」とつぶやいて、経文を一心不乱に唱え、「わたしは人々の難儀を救うために諸国を行脚している空海というものです。わたしが去ったあと、この石にお祈りし、遍照金剛の御袖におすがりして、御利益を受けなさい」と言い残し立ち去った。それで、この石を唯一の記念として弘法大師の徳を慕った。それから、栗は一年に二度ずつ実を結び、大師が杖を立てた跡からは霊泉が湧き出た。この霊水を「御加持水」といい、どんな難病も治癒すると広まった》「与野市史から」 現在 与野新八景のひとつ



## 高橋正幸 (影絵いろり座・座長)

昭和21年 東京生まれ。終戦疎開の北浦和で小・中・高を過ごす。印刷畑一筋で定年を迎える。

平成19年～20年 退職後、影絵と出会う。影絵作家「丘光世先生」や児童文学作家の「宮田正治先生」から指導を受け、現「領家手づくり絵本の会」会員。

平成21年 彩の国いきがい大学伊奈学園20期「ふるさと伝承科」(2年) 卒業。

平成22年 <彩の国プラチナフェスティバル高齢者創作展>にて影絵紙芝居「二度栗山のおはなし」が埼玉県知事賞を受賞。

平成23年 学んだ仲間10名で影絵劇団「いろり座」を設立。現在、さいたま市中心に小学校の土曜チャレンジスクールや保育園、お年寄りのケア施設等、子どもからお年寄りまで多くの方を対象に積極的に公演活動を行っている。



★二度栗山 弘法尊院  
中央区新中里 3-5-9

**カフェギャラリー南風(みなかぜ)蔵の家** さいたま市中央区本町西 2-2-24  
本町通り 埼玉県信用金庫与野支店隣り 048-764-8850 090-4600-1027 (山田)

